

自治体の課題、現状

- ・市内に10ある中学校の生徒数の差により、部活動の選択肢の幅に格差が生じている。最大規模の中学校では文化庁活動が7種類であるのに対して、市内3中学校では吹奏楽部一択である。また、部員数でも、例えば吹奏楽部では最多48人から最小5人と差が大きく、同一種目であっても活動内容に格差が生じている。
- ・地域移行を進める上での特に難しい課題として、吹奏楽部の「学校経営との関係性」「複数指導者を置いた場合の音楽性共有」「指導者謝礼や楽器購入・メンテナンス代金」といったものが挙げられる。

今年度実施した地域文化クラブ活動の概要

中学校数	3校	参加生徒数	38人
部活動数	3部	実施した地域クラブ数	1クラブ
指導者数	1人	運営スタッフ数	50人
運営団体	大仙市消防団音楽隊		
種目	吹奏楽		
活動回数	3回	学年別生徒数	3年：12人 2年：16人 1年：10人
参加会費	なし	主な活動場所	公民館

地域移行関連の取組、成果

- ・コーディネーター配置による、ニーズと課題把握
→最新のニーズや課題を協議会で検討することができた。
- ・コーディネーター配置による、指導者確保及び受け皿団体の開拓
→指導者候補と受け入れ可能団体をそれぞれ複数確保することができた。
- ・吹奏楽での地域文化クラブ活動を実施
→参加各方面から充実感を伴った振り返りを得ることができた。
- ・地域文化クラブ設立のためのマニュアルを作成・配付
→新規クラブ設立・中学生受け入れを希望する団体に配付することができた。

市全体の部活動地域移行のための運営体制図

